

特集

国立大学の 法人化とその影響

国立大学の法人化後の教養教育 * 丸山 正樹 —2
何が変わったのか——国立大学法人化 * 横山 晋一郎 —6
国立大学法人化が私学経営、大学出版部に
及ぼす影響について * 長江 光男 —10

* 二〇〇四年「日・韓・中大学出版部協会北京調整会議」報告
三浦 義博 —16

● 連載

装丁の四季——冬 挿絵家たちの署名解読 * 大貫 伸樹 —表2
古書のある風景 4 雄弁な扉 * 村井 則夫 —14
歩く・見る・聞く 36 旧中山道 巣鴨から板橋宿 —20
大学出版部ニュース —22
関西支部だより —表3



「いい装丁だが、一体誰が装丁したのか判らない」。装丁や挿絵に興味を持つ人なら一度はそんな書物に出会ったことがあるだろう。装丁家名が活字で記載されていないからと言って、すぐにあきらめてはいけない。挿絵の隅の方に小さな署名を残している場合もあるからだ。しかし、この署名がなかなかの曲者で、そう容易く答を出してはくれない。尾崎紅葉『草茂美地』（富山房、明治三七年）の表紙には署名があるのを確認できるが、崩しすぎて読むことが出来ず、活字表記のある同じ署名を見つかるまで待つしかない。

署名解読に関する苦心談は散見するが、それを集大成したものは管見するかぎりないようだ。この際、他人まかせにせず、自分で署名解読書を作ってみようと思い、多川精一氏が発行する冊子「紙魚の手帳」に昨年「挿絵家たちの署名」の連載を始めてしまった。

しかし、実際に手を染めてみると、日本画家の雅号のように、解読しやすい署名ばかりとは限らない。インシヤルをデフォルメしたものや暗号のような記号を記したものなど表現様式は様々である。一人の挿絵家が沢山の種類の署名を使っていることがある一方、反対に広川松五郎や正宗得三郎、小杉未醒のように同時に活躍した複数の挿絵家が共に「田」を署名としていたこともある。更に、活字で記された名前と挿絵の署名が異なるなど編集上のミスもあり、落とし穴が多く、解読は一筋縄では行かない。

挿絵家たちの署名解読

おおぬき しんじゅ
大貫 伸樹 (ブック・デザイナー)



上左: 徳田秋声『熱狂』（祐文社、明治40年）、「羽」の署名はあるが未解読
上右: 尾崎紅葉『草茂美地』（富山房、明治37年）、署名はあるが解読不能
下: 『挿絵家たちの署名』（『紙魚の手帳』東京エディトリアルセンター、平成15年）

徳田秋声「あらくれ」（新潮社、大正四年）の表紙には「田」が光っているような署名が認められるが未解読。同「仮想人物」（文藝春秋新社、昭和二三年）のジャケットには「曾」の署名があり安井曾太郎が装丁したことが判る。が、異装本「仮想人物」（大地書房、昭和二三年）のジャケットに署名はなく、活字での記載もない。見返しの挿絵に「Ron」というサインを見つけることができ色めくが、未解読。同「熱狂」（祐文社、明治四十年）の表紙には「羽」の署名がある。明治期に活躍した「羽」の文字を名前的一部分に使っている挿絵家を追いかけて油井一人『20世紀物故日本画家事典』を紐解いたが見つからないわが国グラフィ誌の嚆矢『風俗画報』六十数名の挿絵家にもない。やとと巖谷小波「徳利長者」（『世界お伽噺』博文館、明治三二〜四二年）に挿絵家・小峰大羽という名前を見つけることができた。年代的に不都合はないがサインがない。署名解読の難しさを身にしみて感じた。

軽い気持ちでスタートしたが、挿絵家の多さや解読の困難さに手を焼く。資料を集めれば集めるだけ解読できない署名も増え、作業の終点が見えなくなってきた。茫洋として広がる難問の前に立たされた、山頭火の（分け入っても分け入っても青い山）の句に共感しながらも、テーマの奥深さを目の当たりにして更に興味が湧き、時間をかけて取り組む覚悟を新にした。

特集

国立大学の 法人化とその影響

皮肉なことに一九九一年の「大学設置基準の大綱化」とほぼ同時に、日本経済は長期停滞期を迎えた。いわゆるバブル崩壊である。このことが大学改革の要請に一層の拍車をかけたのではないだろうか。結果、私立大学はまさに生き残りをかけた競争の時代を迎えている。一方、国立大学も「効率」という本来は教育とは馴染まない尺度での評価にさらされ、「国立大学法人」という帰結にいたった。今号では、この「国立大学の法人化」を主題に、大学改革の経緯や背景から、法人化による変化と影響などを論じた。

これらのことは、教科書・研究論文の出版を手がけている大学出版部にとって、大いに参考となるものであろう。

国立大学の法人化後の教養教育

丸山 正樹

(京都大学副学長・高等教育研究開発推進機構長・京都大学大学院理学研究科教授)

昭和二四年の学制改革で日本の高等教育は、旧制高等学校—大学、専門学校、師範学校—文理大学などの複線組織から、大学(短期大学を含む)のみによる単線組織に組み替えられた。それまで教養教育を担ってきた旧制高等学校、予科の大部分は新制大学に吸収され、高等教育における教養教育は大学前期教育の教養課程に衣替えした。これがアメリカの Liberal arts をモデルにしたことは明らかであるが、大学設置についてアメリカ流の基準評価制度の導入に失敗し、設置認可という規制の枠にはめたことから、その内容は似て非なるものになってしまった。

学校教育法に「学校を設置しようとする者は、……文部科学大臣の定める設備、編成その他に関する設置基準に従い、これを設置しなければならない」とある通り、大学を開設するには大学設置基準に定められた基準を充たすことが義務付けられている。平成三年までは、教養課程についての基準で人文科学、社会科学、自然科学でそれぞれ一二

単位、外国語について二カ国語それぞれ八単位、保健体育科目は四単位を必修とすると細かく定められていた。この規制の下での教養教育は、高等教育の大衆化とともに徐々に風化していき、学生たちは理系の基礎科目以外の教養科目を通過儀礼と見なし、担当教員の多くも情熱を失ってしまった。国立大学の半数近くに教養教育を自主性と責任を持って担当する部局として教養部が置かれていた。例えば、京都大学の教養部のように東京大学の教養学部を模して固有の学部と大学院を設置しようとしたところもあったが、教養部教員は多少の劣等感を持ちながら、義務としての教育とは別に研究を本業と考える者、場合によっては研究さえも放棄してしまつた者というのが、厳しい言い方であるが、実態であつたろう。

大学設置基準の大綱化

平成三年に大学審議会は「大学設置基準の大綱化」を答

申し、それに沿った新大学設置基準は教養教育とその教育体制に大変革をもたらした。教育課程の編成方針で

教育課程の編成に当たっては、大学は、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

とのみ定め、旧基準にあった教養科目の必修単位数を撤廃した。また

卒業の要件は、大学に四年以上在学し、一二四単位以上を修得することとする。

として、教育課程における教養教育と専門教育の割合さえも大学の自由裁量ということになった。例えば、文系の学部で自然科学についての科目を全く用意しないことも許されることになる。

京都大学では、ほぼ同じ時期に教養部を改組して人間・環境学研究科、続いて総合人間学部を立ち上げ、教養部の組織が固有の大学院生と学部学生を教育することになった。従来通りの教養教育を維持すれば、担当教員の負担は大幅増になる。大学設置基準の大綱化は教養教育の「手抜き」を許すことになるが、京都大学はこの誘惑に抗して全教員の協力を期待しつつ教育の質を低下させないこととした。

しかし、結果的には人間・環境学研究科と総合人間学部所属教員に負担増を強いた。大学設置基準の大綱化後、京都大学に続いて東京大学以外の国立大学も教養部の廃止に走

り出した。文部科学省は「各大学が教養部の人的資源を使って、時代の潮流にあった新しい組織を立ち上げたのである。教養部廃止を方針とはしなかった」と主張しているが、廃止の方向へリードしたのは間違いない。大学によって廃止の仕方は異なったが、教養部の一部を新しい組織に転換し、残りを関係学部にも所属させる、教養部の全教員を幾つかの学部に分け配する、などが典型的な方法であり、教養部廃止後の教養教育の担当は教養部教員の配当先が配当数に応じて担うのが普通であった。

上記の「教育課程の編成方針」にある教養教育についての定めを裏付けするのは、各大学による自己点検・評価であったが、これは単に努力目標でしかなかった。実際、殆どの大学は自己点検・評価で何をなすべきか分からず、各種データと問題点だけを列挙する評価書はまだよい方で、自画自賛に終始するものも少なくなかった。大学審議会は平成一〇年に答申「二一世紀の大学像と今後の改革方策について―競争的環境の中で個性が輝く大学―」において、「学問のすそ野を広げ、様々な角度から物事を見ることのできる能力や、自主的・総合的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を養い、自分の知識や人生を社会との関係で位置付けることのできる人材を育てる」という教養教育の理念・目標の実現のため、

と教養教育の重視を謳い、他方で、授業の設計と教員の教育責任、成績評価基準の明示と

厳格な成績評価の実施、履修科目登録の上限設定と指導などを通じた教育方法の改善を推進するに当たっては、ファカルティ・ディベロップメントと同時に、教育活動について自己評価を行うあるいは学生の評価や外部の意見を求めていくことによってその実効性を担保し、更なる改善のための材料とすることが重要である。

と教育について評価の重要性を具体的に指摘した。具体的には、自己点検・評価の実施及びその結果の公表を大学の義務とし、学外者による検証を大学の努力義務として位置付けることとした。評価によって（教養）教育の質を担保しようとする意図が見て取れる。

しかし、設置基準の大綱化、教養部廃止から平成一〇年の答申を受けた設置基準の改定（平成一一年）への過程で設置基準の大綱化に「悪乗り」して、教養教育の内容を弱体化させた大学が多かったのも否めない。国立大学に義務づけられた大学評価・学位授与機構のテーマ別評価に教養教育が挙げられたが、教養教育の中身まで踏み込んだ点検は行われず、システムと態勢の評価に重点が置かれたようである。教養教育の手抜きの実態について認識が不十分であると思う。

法人化後の教養教育

国立大学の法人化の功罪をどう評価できるか、少なくとも

もこれから数年の実績を見る必要がある。しかし、法人化に進む過程で大学のあり方について激しい議論があり、強いられたこととはいえ中期目標、計画を用意したことは、多くの大学人に大学教育、特に教養教育について深く考える機会を作ったことは事実であり、法人化の積極的な側面として評価すべきである。この議論の中で教養部廃止後の教養教育のあるべき姿について、教育組織と教育課程の両面から検討が進んだ大学が多い。これまでの経緯は一旦白紙にして、全学出勤態勢を前提として教養教育を再構築する方向に進まざるを得ないものと考えられる。

高等教育の内容、システムの改善は国立大学の法人化を検討し始める以前に殆ど準備されていたと言ってよいだろう。むしろ教育改善の議論と結論が財政的効率化、行政改革と共に国立大学法人化の契機の一画を占めたとも考えられる。こうした見方については、上で一部引用した平成一〇年の大学審議会答申を改めて読み直してみると腑に落ちる点が多い。国立大学の法人化が確定した平成一四年末の学校教育法の改正で、設置認可の範囲の緩和と大学の定期的な認証評価が義務づけられた。設置認可がなく基準評価 (accreditation) で大学が大学として確立していくアメリカにおけるものとは意味が違おうであろうが、大学における教育について社会的説明責任を明確にするものである。各大学はその教育について不断の自己点検・評価と認証評価を義務づけられ、改善を求められることになった。教養教育

が学部教育の半分を占め、その充実が叫ばれる中、大学によっては教養教育の内容を半減させてしまったが、改めて本来あるべき姿を模索し、実現させていかなければならない。教養教育の責任は重い。

国立大学法人への国からの資金は運営費交付金として支給される。今年度の運営費交付金の支給実態を各大学が固唾をのんで注視していたが、予想以上に厳しい現実に呆然としている大学人も多い。非公務員型で法人化したために、教職員に関わる労働、労働安全衛生の法律が別のものになり、それに伴う費用が案外馬鹿にならないこと、教職員の給与、取引業者への支払いが民間企業と同等になり、銀行振り込み費用がかかる、種々の事故、障害についての賠償が国家賠償法の枠からはずれたため、多額の保険費用が必要なことなど、京都大学の場合で校費（教育・研究費）の七〇近くをこれらの費用に投入しなければならないことになった。校費は水光熱費、非常勤職員給与など固定的経費を含んでいるので、教育研究の現場での予算カットは少なくとも十数%、分野によっては五〇%以上に及んだところもある。研究第一に考える大学教員が多い実態を考え合わせれば、このつげが教育に回るとは想像に難くない。

これまでの国立学校特別会計とは違った予算措置のため、制度の運用に思い掛けない齟齬が生じているものもある。典型的な例は、財務省が「非常勤講師手当は人件費全体の中に組み込まれている」と主張するのに対して、通常の人

件費とは別枠で措置されてきたこれまでの制度が対応できなくなっている。専任教員の負担を増やさなければ、この事態もまた、多くの非常勤講師に頼っている教養教育（京都大学で全非常勤講師の四〇%）は質の低下に繋がりがかねない。

法人化と直接の因果関係はないが、大学生の学力の低下、幼児化により、大学初年級で本来の教養教育が機能しなくなっている。高等教育の大衆化と、「ゆとり教育」の負の側面が大学に及んだということであろう。さらには、受験地獄に対する社会的批判をかわそうとした文部科学省と入学生志願者確保に汲々とした大学が入学試験の軽減化に向けたことが、学生の基礎的教養の低下を招き、学生が教養そのものを理解せず、教育に期待するものが変質している。実際、学生達が功利的になっていて、教養教育でも実利を求め、資格獲得などを要求する学生も少なくない。

法人化した国立大学は外部資金獲得に血眼になっており、優秀な学生を確保して大学の評価を上げることが至上命題である。加えて全入時代を迎えた大学の競争は熾烈なものになると思われ、そういう状況だからこそ、大学が入学試験の意味を考え直す時期である。さらには、平成一八年度入学生から学力低下が益々進むと思われる、専門教育を受けるに十分な基礎学力と豊かな人間性を涵養する教養教育がどうあるべきか、またどこまで可能か、解決しなければならぬ問題は多い。

何が変わったのか——国立大学法人化

横山晋一郎 (日本経済新聞社編集委員)

四月一日を期して、全ての国立大学は法人化された。明治時代の帝国大学の創設、戦後の新制大学の発足に匹敵する大改革だ。

国立大学法人には、役員会が設けられ経営協議会と教育研究評議会が置かれた。メインバンクが決まり、監査法人が決まり、国から現物出資という形で資本金が定められた。大学の管理運営体制は、私立大学Ⅱ学校法人に近いものになり、大学の本部機能、学長権限は飛躍的に強化された。職員は非公務員となり、大学病院では超過勤務手当を巡る混乱も起きた。予算の仕組みや、学内の資金分配のルールも変わった。外部から経理のプロを招き、毎月の資金管理を厳格化した大学もある。

多くの大学は、地域社会に貢献する組織を作り、知的財産の管理に乗り出し、産学連携に意欲を示している。大学の広報マインドも高まり、新聞紙上では、大学発信のニュースが一気に増えた。国立大学がやけに元気になってきた

な、というのが昨今の感想である。

こうした大学の変化は間違いなく、学生にも伝わっているようだ。大手予備校の河合塾が、OBの現役学生を対象に「法人化が変わった点」を尋ねたアンケートに、そのあたりの事情が垣間見えるので、その一部を紹介しよう。

【教育体制の充実】

- ・成績評価方法が厳しくなり、保護者に成績表を送付
- ・学生の授業評価に加え、教員も他の講義を見学して評価

価

- ・教員任期制の導入
- ・各学部でJABEE等の教育評価認定を受ける
- ・授業数確保のため夏休みの開始が遅くなり、土曜日が授業振替日に
- ・薬剤師国家試験の合格率向上のため、成績不振学生には集中講義を設定
- ・学長と直接話ができる学長オフィスアワーが新設

・優秀な学生の表彰制度導入

・資格試験受験の支援体制が充実、予備校の講演会も増加

【学生サービスの充実】

・就職情報の提供が積極的になった

・就職に関する情報をメールで配信

・学生五人に教員一人のチューター制導入

・学生課が学生支援課に組織改革

・事務の受付時間が延長され、事務員の態度が良くなった

・教室に冷房が入った

・学内に銀行のATMやレストランができた

【その他】

・実家に授業料の督促通知が行くようになった

・休学中の授業料が、全額免除から一部納付に変更予定

・産官学連携の取り組みが増えて、教員や企業向けセミナーも増加

・大学講堂の一般向け貸し出し

・図書館の地域開放

・一般向けの夜間講座などの充実、一部有料化

こうした報告からは、学生がきちんと勉強する環境作り
に腐心する一方で、産学連携や地域貢献に取り組み国立大
学法人の意欲が感じ取れる。また、授業料の督促、減免基
準の厳格化を始め、備品管理の見直し、節電の呼びかけな

ど、コスト意識の高まりが窺える報告もあった。対外宣伝
に力を入れる大学もあった。四、五月のアンケートという
ことを考えると、なかなかの対応ぶりと言えよう。

ただ、改めて考えると、こうした施策の多くは、何も法
人化しなくてもできたことであることに気づく。法人化と
いうショック療法が、意識改革をもたらしたことは評価す
べきだが、それは今までの無策の裏返しとも言える。なる
ほど、これが法人化効果か、というインパクトとしては、
いささか心許ない。

法人化で大学はどのように変わったのか、東京大学の佐々
木毅総長に尋ねたことがある。「学内のいろんな意見が総
長以下、執行部に向けられるようになった。今までは文科
省のせいにしていれば良かったが、これからはそうはいか
ない。おかげで学内の問題点がたくさん見えるようになっ
た」

東大では毎週二回、総長以下、副学長や理事、副理事、
監事ら十数人が集まって拡大役員会を開き、研究・教育の
問題から産学連携、職員の採用まで、大学運営に関するあ
らゆることを議論しているという。議論百出、いつも予定
時間をオーバーする。

一方で、この夏の概算要求作りでは、若手教授・助教授
クラスからなる評価委員会が、各部署が執行部に要求を説
明する場面に陪席、個々の要求を評価して、大学としての
概算要求をまとめた。大学のマネジメントが大きく変わり

つつあるのは間違いない。

だが、法人化の渦中にいる佐々木総長でさえ、「少なくとも一年はたたないと、法人化後の国立大学の姿は見えて来ない」と話す。国立大学財務・経営センターの天野郁夫教授も、「二〇〇四年四月一日はゴールでなくスタート。変化が出てくるのは、これから」と指摘する。どうやら、法人化で、国立大学が変われるのかどうか、本当の勝負はまさにこれから、というのが実情のようだ。

ところで、国立大学を取材していて、どうも気になるところがある。法人化のポイントの一つが、外部人材の登用であった。役員や監事、経営協議会委員、学長選考会議委員として、多くの外部者が大学運営に関わるようになった。だが、こうした外部の人材を大学はきちんと活用できているのだろうか。あるいは、活用する意志があるのだろうか。経営協議会委員に話を聞くと、大学側から膨大な資料が次々と示され、その説明だけで会議が終わってしまうという話をよく聞く。

お茶の水女子大では第一回の協議会で、学内諸規則等の資料を次々と示し、同意を求めたため、外部委員の一人が、「大学側の資料を追認するだけの会議なら出る必要はない」と立腹する場面があったという。法人発足直後の混乱はやむを得ないとしても、今後、経営協議会が、何をどう議論していくか、学内運営でどのような役割を果たせばいいのか。その位置付けを決めることが、意外に難しい気がする。

「次年度の予算をじっくりと議論したい」「中期目標・中期計画を見直したい」「能力別給与の導入をしたい」……。大学運営の根幹に関わる部分への積極関与に、意欲を燃やす委員は少なくない。一方で、大学からは、「大所高所からの議論を期待している」「細かい話を議論する場ではない」といった声も聞かれ、どうも両者には温度差があるようだ。開催も年に四、五回程度というところに落ち着ききうで、かつての運営諮問会議とどこが違うのか、今後の成り行きが大いに注目される。

経営協議会以上に難しいのが、学長選考会議だと思う。それぞれの国立大学は、その歴史の中で、独自の学長選考ルールを確立して来たが、共通の大原則は、学内の選挙で学長を決めるいうことである。だが国立大学法人法では、学長は学長選考会議が学長候補者を選考することになっている。単純に読めば、学内選挙を実施する必要はない。

だが、それでは大学の内部はもたないのは明らかだ。大学自治の問題にも関わる。そこで、多くの大学はなるべく従来の慣例を尊重、温存できるように、知恵を絞っている。しかし、あまり旧来の慣例に拘ると、学長選考会議の外部委員の存在価値がなくなる。学内選挙の結果を追認するだけなら、とんだ茶番だという声が強まりかねない。実際、北海道大学では学外委員から、学内選挙不要論が飛び出したという。

九月末、東大の総長選挙が行われ、現職の佐々木総長を

破って、小宮山宏副学長が次期総長に決まった。ここで注目したいのは、東大は、小宮山氏769票、佐々木氏536票という学内選挙結果は公表したが、総長(学長)選挙会議がどのような観点から、次期総長を選んだのか、一切公表しなかったことである。選挙会議長の森元総長は、記者会見で質問が出ても、この点に必ずしも明確な見解を示さなかった。一体、何のための選挙会議だったのだろうか、思わずつっこみたくなる対応だった。

良い意味でも悪い意味でも、東大は全ての国立大学のお手本、という側面がある。東大の出方をじっと見ているのである。法人化初の東大の総長選びで、選挙会議が意思決定に至る根拠が示されず、旧来型の学内選挙結果だけが公表された意味は大きい。おそらく似たような現象が、各大学で次々と起こるはずだ。

だが、前述したように、選考会議の役割が曖昧な状態が続けば、外部委員の不満が高まるのは避けられない。それだけでなく、外部委員には、要職にあつて多忙な人たちが多い。自分たちが単なる学内意向の代弁者、追認者の役割しかないとわかったら、とたんに、経営協議会、学長選挙会議への関心を失いかねない。いや、関心を失うどころか、国立大学法人制度そのものに懐疑の念を抱き、大学人の旧態依然たる意識構造に不満を持つようになるかもしれない。そのような声が広がれば、国立大学法人は何をしているのだ、こうなればもう一度制度を見直し、一気に民営化Ⅱ

学化するのやむを得ず、などといった話が、再燃・拡大する可能性もある。

このように考えると、経営協議会、学長選挙会議の外部委員をどう生かすかは、国立大学法人制度の行く末を、大きく左右する問題だということがわかる。

確かに、大学の立場から考えれば、国立大学法人法で義務づけられたから、外部人材を招いたのであって、本心から歓迎できる存在ではないというのが、本音なのかもしれない。実際、大学の特殊性、企業と大学の違いを考慮せず、「民間企業ではこうなっている」「企業のやり方はこうだ」といった具合に、民間風を一方的に吹きまくる外部委員もいると聞く。できれば、実際の意思決定から遠ざけたいという「深層心理」はわからないでもない。

だが、そうだからと言って、あまり外部人材をおろそかにしていると、とんでもないしっぺ返しを食らうおそれがあることは、先に述べた通りである。外部意見と内部論理に、どう兼ね合いをつけていくのか——それは、大学が本当に社会に開かれた存在になるために避けては通れない道筋である。

実は、これこそが、国立大学法人制度が当面抱える、最大の課題だという気がしてならない。

国立大学法人化が私学経営、大学出版部に及ぼす影響について

長江 光男

(日本大学出版部協会事務局長・東京電機大学出版局長兼エクステンションセンター長)

一 構造改革の一環としての国立大学法人化

国立大学法人化はかねてから検討されていて、国家公務員の定員の二五%削減、財政支出の削減、国営企業の民営化、競争原理の導入というこのたびの構造改革・規制緩和の一環として行われた。

二 国立大学法人化の概略・効果と影響・将来

(一) 概略

国立大学法人化の概略は次の通りである。

・大学ごとに法人化し、国の規制を少なくして、大学が独自に運営できるようにする。

・各国立大学法人には、役員として学長、理事、監事を置き、重要事項は役員会の議を経て決定する。審議機関として経営に関する重要事項を審議する経営協議会と教育研究に関する重要事項を検討する教育研究評議会を置く。ともに議長は学長で、双方の代表者が学長を選ぶ。

・学外役員制度を導入する。役員会・経営協議会への民間的発想の経営手法を導入する。能力・業績に応じた給与システムを導入する。

・各国立大学法人の六年間の中期計画の結果を国立大学法人評価委員会が第三者評価をして、その評価をもとに国が各国立大学法人への運営費交付金を決める。

(二) 効果と影響

国立大学法人化により、国家公務員が定員で約一三万五千人、実質で約一一万六千人減少した。今後は国立大学法人経営のより一層の効率化が求められよう。

かつて財務省は二〇〇四年度から義務的経費が運営費交付金に変わるのを契機に裁量的経費とし、国立大学法人の運営費交付金を毎年度二%削減することを考えていた。また運営費交付金算定ルールでは、教育研究の基幹的部分(大学設置基準に基づく専任教員数に必要な給与費相当額)を対象から除いて一%の効率化係数を計上している。二〇

○四年度の運営費交付金約一兆五千億円の多くが人件費であることから、効率化をはかるにはまず人件費の抑制が考えられる。

教員については、国公立大学を通じて適用される大学設置基準に必要な専任教員数が規定されている。それに基づいて作成されたのが、「平成十六年度国立大学法人教職員数試算基準（案）」である。この案は国立大学法人の教員数を標準教員数にまで削減すべきことを求めるものではないとしているが、現在国立大学法人本務教員一人当たりの学生数（大学院生等を含む）は、一〇・二一人。一方私学（同）は二四・四五人で、国立大学法人は私学の約四割にすぎない。

事務職員については、現在国立大学法人本務職員一人当たりの学生数（大学院生等を含む）は、一一・二二人。一方私学（同）は一九・〇人で、国立大学法人は私学の約六割である。専任事務職員数については大学設置基準に必要な数の規定はない。

（三） 将来

国立大学改革は国立大学法人化で終了したのであるのか。一九九二年二月の経済戦略会議答申では、「将来の民営化を視野に入れて段階的に制度改革を進める」とある。

・二〇〇三年二月、総合規制改革会議は「機能・役割りを果たさない国立大学は速やかに改廃・民営化等の組織の見直しが行われるべきである」としている。

これらのことから今後国立大学法人の民営化がさらに進むことも考えられる。

三 国立大学法人化が私学に及ぼす影響

次のようなことが考えられる。

（一） 収入面への影響

入学試験手数料収入⇨国立大学法人化しても国立大学法人全体の入学定員が増えることがないので、それによって私学の入学志願者が大幅に減少するほどの大きな影響が出ることは考えにくい。むしろ国立大学法人の大学入試センター試験科目が五教科七科目となり、志願者の負担が増えるので、私学の受験者が増えることも考えられる。また、国立大学法人の学費は、文部科学省が定める標準額から一〇%増の額の範囲内で各大学法人が具体的な額を設定することになっている。具体的には、二〇〇五年度から入学金は二八万二〇〇〇円⇨三一万二〇〇〇円、授業料は五二万八〇〇円⇨五七万二八八〇円となる。これは国立大学法人の学費の値上げにつながるものである。この点からも私学の受験者に悪い影響が出ることは考えにくい。

入学金、授業料収入⇨国立大学法人は教員、施設設備に余裕があるので、水増し入学させて授業料収入を増やすことにより私学の入学者が減少し多くの私学が倒産するといふ話があるが本当であろうか。確かに私学に比べて教職員、施設設備に余裕はあろう。しかし入学定員制度がある以上、

入学定員（約九万六千人）を大幅に超えて新入学生を入学させることは難しいであろう。入学定員を超えて入学させると運営費交付金が減額されると聞く。かといって国立大学法人の入学定員を増やして新入学者を増加させることについては、国の新たな支出増を招くこと、また国立大学の入学定員はここ一年間連続して減少していることなどから、当面考えにくい。大きな影響はないものと考えられる。

負担に見合う給付がない等の理由で私学の教員が雇用保険に加入している私学は少なかつた。国立大学は法人化により教員全員が雇用保険に加入したのを受けて今後は私学の教員も加入が強く求められよう。現在雇用保険に未加入の私学は加入することにより経費の負担増が考えられる。

(二) 管理運営面への影響

寄付金収入、委託研究費収入、科学研究費収入Ⅱ国立大学法人が一層獲得に努めるであろうから影響がでることが考えられるが、金額的には大きな額ではない。どの程度の影響がでるか各私学の事情によって大きく異なるろう。

私立学校法の一部改正Ⅱ国立大学法人化に絡んで、「理事長は毎年度事業計画および事業の実績を評議員会に報告しなければならぬ、外部理事を置く」等の改正がすでになされ、二〇〇五年四月一日から施行されることとなった。

学校法人会計基準の改正Ⅱ国立大学法人会計基準の制定を契機に、基本金のあり方の見直しや時価会計など企業会計基準の考え方を取り入れる検討をし、改正が予定されている。

国庫補助金収入Ⅱ私学に対する補助金は年々増加しているが、二〇〇二年一〇月、財政審議会は、経常費補助金を抑制することを建議している。国は支出を削減するために国立大学法人への運営費交付金を減額したいと同時に私学に対する補助金も減額したであろう。一九七〇年に私学の経営を援助し、倒産を防ぐために始まった補助金は、競争時代に入った今、当初の目的はなくなつた。また、最近株式会社立の私学が認可されるようになったが、株式会社立の私学には補助金はでない。前に述べたように、国立大学法人への運営費交付金の減額が始まつた今、私立大学への経常費補助金も減額が始まるのではないであろうか。

中期目標・中期計画Ⅱ長期的に見て私学に大きな影響を与えよう。私学は国立大学法人の中期目標・中期計画を視野に入れた独自の中期目標・中期計画を持つ必要がある。これからは計画競争の時代となり、計画の適否が大学の将来を決める時代が来たといえよう。

経営組織Ⅱ国立大学法人の経営協議会は構成員の二分の一以上が学外委員でなければならない。経営と教育研究の分離がはかられている。私学においては理事会が経営協議、教授会が教育研究の会議であるが、理事会の構成員の多くが教員で、理事会といっても教授会の延長である私学もあ

人件費支出Ⅱ身分保障がある、定年が六五歳以上なので

(二) 支出面への影響

人件費支出Ⅱ身分保障がある、定年が六五歳以上なので

る。そのような私学は、国立大学法人に習った制度を導入し、経営を強化する必要がある。

四 国立大学法人化が私学の大学出版部に及ぼす影響

国立大学法人化が私学の大学出版部に及ぼす影響として、国立大学時代と大学法人化後の大学出版部に関する制度の違いによる影響と国立大学法人化により大学間の競争が激しくなり、生き残り策の一つとして大学出版部をつくる国立大学法人が増えるという二つの面からの影響が考えられる。

(一) 制度面から見た影響

国立大学法人ができる業務は、国立大学法人法第二二条に次の通り規定されている。(五、七項以外は省略)

五 当該国立大学における研究の成果を普及し、及びその活用をはかること。

七 その業務に附帯する業務を行うこと。

この規定から、国立大学法人ができる業務は研究の成果の普及であり、その業務を遂行する過程で対価を得ることはできても収益をあげることではない。(私学でいえば出版活動を補助活動事業として行うのに類似している)

また、私立大学は私立学校法第二六条で収益事業が認められているが国立大学法人法は収益事業に関する規定はなく収益事業を営むことはできない。(私学でいう収益事業部門としての大学出版部は存在しない)この考え方は従来

の国立大学時代と同じである。以上のように出版に関わる制度上の変更はほとんどないといってよい。したがってこの面から私学の大学出版部に大きな影響が出ることは考えにくい。

(二) 国立大学法人が大学出版部をつくることによる影響

新たに大学出版部をつくらせた国立大学法人の教員が自分の所属する国立大学法人の大学出版部で書籍を刊行することになることが考えられる。その結果、国立大学法人に新たな著者を得ることが困難になったり、著者が現在よりも少なくなることとも考えられる。また新たな教科書採用が難しくなったり、現在販売している教科書の売上が減少することも考えられる。国立大学法人の著者が多い私学の大学出版部あるいは国立大学法人等に教科書等を販売している私学の大学出版部には影響が出よう。

また、国立大学法人法第二二条により新たに大学出版部を設立した場合、刊行物を市販し利益を上げることができないが、法人格を有する大学出版部を設立した場合、類似の出版物が刊行・市販されることが考えられ、これによる企画、価格、販売等への影響が考えられる。

私学の大学出版部によってはさらにいろいろな影響があるろう。しかし私学の大学出版部にあつてはこれらの影響を乗り越え、更なる発展・飛躍を期待したい。

古書のある

風景

「こしよのあるふうけい」

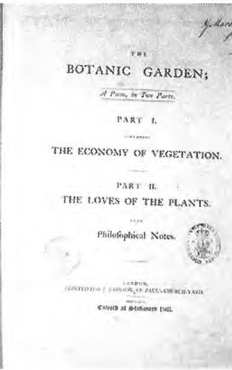
4

雄弁な扉

村井 則夫

撮影・別宮幸徳

Alpa 10d, Kern Macro Switar 1.9/50



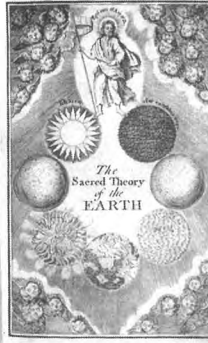
「もの」としての古書の魅力は、それが出版された当時の雰囲気や濃厚に発散しているところにある。本文テキストそのものは、後に出版されたモダン・エディションで読むことができたり、あるいは批判版によってより信頼の置けるテキストが入手可可能な場合であっても、初版やそれに近い版は、同時代のもの特有の要素を身にまとっている点でかけがえがない。そのような意味で、古書を古書らしくしている要素には、時代によってさまざまなものがある。もちろん最も分かり易いのは、木目状仔羊皮や斑模様仔羊皮で包まれたその装幀だろうが、もう一つ目を引くものとして、十八世紀中頃までの書物にかなりの割合で挿入されている巻頭の扉画がある。書物に挿入された挿絵の一種ではあるのだが、個々の場面の図解や埋め草的な装飾模様（ヴィニエット）とは異なり、著作全体の理念を象徴的に絵解きするのが、この寓意扉画という習慣である。十七世紀のバロック期にとりわけ盛んであったが、十八世紀頃の著作でも多くの場合この習慣がなおも踏襲されている。そして、その図案の原作者や銅版画の彫師としては、当時の名だたる人物の名前を見いだすこともできる。

例えば、ここにエラズマス・ダーウィンの『植物の苑』(The Botanic Garden 一七九一年)がある。著者は、進化論で有名なチャールズ・ダーウィンの祖父にして、彼自身も八面六臂の活躍をした十八世紀の知的巨人である。『植物発達の管為』と『植物の愛』を組み込んだ彼の『植物の苑』の巻頭には、「諸元素に取り巻かれたフローラ」という寓意扉画が付されている。この扉画の原作者は、フロイトが好んだ絵画『夢魔』の画家フェースリである。植物の女神である「フローラ」はここで目の前に鏡を掲げられ、自らの姿を見つめ、その周囲には火の精、地の精、水の精、空気の精が配されている。「鏡を見つめる女性」という図像は、古代より「知恵」の寓意画として用いられているが、ここではそれが自然を象徴する「植物」の女性像に託され、自然に関しての「省察」の場として

右：エラズマス・ダーウィン『植物の苑』寓意扉画。原画はフュースリ。

中：同じく『植物の苑』より。原画フュースリ、ウィリアム・ブレイク刻。

左：バーネット『地球の聖なる理論』英訳初版の扉。時計回りに地球の発展過程が描かれている。



われわれが当然のようにみなしている理論と芸術、学問と文学、神学と科学といったような垣根がいまだ足枷とはならず、その領域のあいだを自由に往き来する精神が横溢していたのが、十八世紀という時代であり、そのことを印象的に示しているのが、書物に付された寓意扉画であった。現代から見ると未分化で未発達とも思われがちなその意匠の内には、知の力を枯渇を防ぎ、芸術的な想像力をも知的なエネルギーに変換していくきわめて精妙な装置が組み込まれていたようだ。

(明星大学専任講師)

領域の越境という点では、科学と神学も例外ではない。例えば、トーマス・バーネット『地球の聖なる理論』(Telluris Theoria Sacra 一六八〇—一六八九年)などは、近代地質学の出発点となった著作ではあるが、その標題にも示されているように、それは純然たる「科学的」著作ではなく、むしろ聖書の「創世記」の記述を理論的に確証し、神の栄光を讃美するための「神学的」性格を色濃くもっているのである。そのため、その巻頭に付された寓意扉画も、地球の発展段階を円形に配列し、その成立過程を表しているものの、その頂点に立つのはやはりキリストである。こうした寓意画も、近代初頭における諸学の交流のさまを視覚的にはつきりと見せてくれる。

の「植物の苑」を象徴している。このような寓意画で表されたダーウィンのこの作品は、宇宙の創生から始まり、地質学的考察から、動植物や鉱物に関する博物誌的記述を盛り込み、溢れんばかりの饒舌な形容によって飾り立てた壮大な宇宙誌となっている。いわば科学版『神曲』、あるいは十八世紀版ルクレティウス『自然学』とも言えそうな作品である。「理論的」知見をこのような詩作品として表し、しかもその全体を象徴する一幅の寓意画が作られるというのは、十八世紀においてはかならずしも珍しいことではない。むしろ文学と思想、理論と芸術が往来するというのが、十八世紀の知的な環境を豊かなものとしていた。

二〇〇四年「日・韓・中大学出版部協会北京調整会議」報告

三浦 義博 (日本大学出版部協会国際部会長)

日本大学出版部協会派遣団

渡邊 勲 (幹事長・東京大学出版会)

三浦義博 (国際部会長・東海大学出版会)

三浦邦宏 (総務担当幹事・明星大学出版部)

後藤健介 (国際部会副部会長・東京大学出版会)

二〇〇五年度セミナー告知

開催時期…二〇〇五年一〇月

開催場所…慶州市(大韓民国)

セミナー主題…大学の変化と大学出版+出版の変化と

大学出版の編集方策

報告者…日・韓各三名(中国が参加する場合は各一名)

同時開催事項…日・韓大学出版部協会相互交流調印書

締結式

はじめに

「日・韓・中大学出版部協会合同セミナー」は不定期開催となり、新たに「第一回日本・韓国大学出版部協会合同研修会」(仮称)がスタートする。

「第七回三カ国セミナー」はSARS問題に端を発し、日・韓二カ国による三カ国セミナーという変則開



北京調整会議後の記念撮影

催となったが、その後、中国大学出版社協会から「三カ国セミナーの隔年開催」が、韓国大学出版社協会から「日・韓大学出版社協会相互交流調印書」が提案され、国際部会では「三カ国セミナーと日・韓研修会を組み合わせた毎年開催」案が議論されるなど、三カ国間の新たな調整事項も生じていた。このような事態の推移を受けて国際部会と幹事会は日・韓・中代表者による、三カ国セミナーを正常な状態に戻すための「調整会議」を中国・韓国に提案した。正常な状態とは、渡邊幹事長の言葉を借りれば「三カ国の参加者が一堂に会して議論できる状態」である。

九月四日夜に北京入りした代表团は、渡邊幹事長から、①北京調整会議は三カ国セミナーを正常に戻すための会議であること、

②中国側の隔年開催提案を確認すること、

③隔年開催であれば、日・韓研修会を隔年で開催すること、④「正常化」の理論を持続すること、

などの再確認を受け、三カ国調整会議に備えたが、事態は予期せぬ方向に急展開した。

波乱含みの北京調整会議前夜

五日は「北京国際図書博覧会」視察後に北京大学出版社を訪問した。

北京大学出版社の王明舟社長から、成長を遂げる北京大学出版社の概況説明を受けて懇談が一時間ほど続き、その

後、彭松建・元北京大学出版社社長（現中国大学出版社協会副理事長）の待つ、北京大学国際会館内のレストランへと向かったが、席上彭松建副理事長より以下の三点が提案され、事態は急転した。それは、

①三カ国代表者による毎年あるいは隔年の定期会合を開催する、

②従来のセミナーは不定期開催とする、

③今回の三カ国会議は代表者挨拶によるセミナーとする、
と言うものであった。

渡邊幹事長から、北京に来た目的は「三カ国セミナーの運営を話し合うためである」という説明がなされたが、「それはセミナー終了後に代表团で検討する」という回答であり、セミナー開催は予定されていないため何の準備も用意もしていない、と言う日本側の発言に対しては「代表挨拶に各国事情を盛り込めばよい」といった逆提案が示された。

この一年間、国際部会では、〇三年度セミナーの中国不参加という経緯を真剣に受け止め、重い気分で三カ国セミナーの正常化を模索し、中国側、韓国側と事前調整を重ねてきた。彭副理事長の予期せぬ提案に所期の目的を遂げることなく、さっと乗り換える変わり身の早さは持ち合わせていない。まして提案は、長年積み重ねてきた三カ国セミナーの意味合いを根底から覆しかねないものである。

日・韓大学出版部協会打ち合わせ

翌日の六日は、午前一一時から、日・韓代表团による会合が持たれた。先日の中国側提案を伝え「調整会議」における韓国大学出版部協会の対応を依頼するとともに、日・韓相互交流調印書と日・韓研修会が議論された。結果は冒頭に記した如くであるが、三カ国調整会議の予期せぬ事態の急変に対し、徐会長以下、韓国大学出版部協会の対応は感服すべきものであった。

「日・韓・中大学出版部協会調整会議」(抄録)

二〇〇四年九月六日(一五時～一七時三〇分)に中央廣播電視大學出版社で開催された「日・韓・中大学出版部協会調整会議」の議事録を抄録する。会議は彭松建副理事長による三カ国代表団の紹介と錢輝鏡中央廣播電視大學出版社社長の挨拶によって始まり、三カ国代表の挨拶に対する質疑応答という形式を取った。

I 三カ国代表者挨拶

I-1 李家強・中国大学出版社協合理事長挨拶(講演)

「中国大学出版社的快速発展概況」と題する講演がなされ、レポート後段では、(1)日・韓・中の三カ国代表による定期交流、(2)従来型の三カ国セミナーは不定期開催とし、三カ国代表による定期交流(毎年あるいは隔年)において必要と判断されたときに開催されるものとする、という提案が中国大学出版社協会から公式に提案された。

I-2 渡邊勲・日本大学出版部協会幹事長挨拶

続いて日本大学出版部協会渡邊幹事長より、三カ国合同セミナーの継承と更なる発展を求めて北京に来たことが再確認され、日本の大学出版部が直面する課題として、(1)経済性と文化性の兼ね合いの中で、単なる利潤追求が最終目的ではない大学出版固有の役割を認識すること、(2)日本における大学の変化の中で、大学の機能と結びついた大学出版の力を発揮しなければならないこと、(3)書籍と電子媒体の未来を見据えた大学出版部としての対応が求められていること、の三点を挙げ、三カ国大学出版部協会が相互にこのような課題の検討を交流の基礎に据えることを提言した。

I-3 徐鍾錫・韓国大学出版部協会会長挨拶要旨

徐鍾錫会長は、会場へ移動する短時間の内にスピーチ内容を纏めた。困難な状況に冷静に対応され、中国大学出版社協会に対して適切なメッセージを送られた。以下は徐会長の発言要旨である。

(1)〇三年度三カ国セミナーは二カ国開催となり、〇四年度も開催できず残念である。(2)大学教育と出版文化のために大学出版部が存在することは大事なことである。韓国においても電子媒体や読書離れなどの問題は日本と同様な現象であり、これらを議論した三カ国セミナーは韓国大学出版部協会にとって大事なことであった。韓国は日本との交流を今後も続けて行く。これに対して中国が加わることを確信している。(3)本日の会議の討論が今後の三カ国発展に意

義あるものになることを期待する。

II 自由討論

上記の代表挨拶を受け、質疑応答が開始されたが、韓国大学出版社協会より「韓・中通訳者の不在」に対する抗議がなされた。また後藤副部長には日・韓の通訳という重責を担って頂くことになった。感謝に絶えない。

質疑応答は、三カ国セミナーに対する中国側提案に集中したが、中国側のスタンスは「三カ国会長交流は毎年開催を希望している。三カ国会長間で合意が成立した時に合同セミナーの開催となる。場合によっては毎年もあり得る」

「三カ国代表による会合は効率的であり、三カ国代表で課題を把握することが効果的である。中国大学出版社協会加盟出版社は一〇八出版社である。課題に対する加盟出版社の温度差もあり、選別と均等化が必要であり、日本、韓国とは国情や社会システムには違いがある」といった効率重視のものであった。

III 結論

国営企業としての中国大学出版社は、急激な経済成長の中で熾烈な市場競争を繰り広げ膨大な利益を生んでいる。北京大、清華大などは中国出版市場で五年以内にベスト一〇入りを目指すと言う。中国大学出版社協会は日・韓とは別のスタンダードを持ち始めているのであろう。

しかし、突然の中国側提案と予定外のセミナー開催に対して、また三カ国セミナーの将来を左右しかねない中国側

提案に同調しない日本・韓国両代表団の対応により、会議は気まずい雰囲気の中で、すれ違い現象を露呈したまま時間が経過していった。会議の終了に当たり渡邊勲幹事長より、

●中国側提案の「日・韓・中の三カ国代表による定期交流と今後の三カ国セミナーの開催方法」については、この会議の場で直ちに合意できるものではなく、帰国後関係者と調整・相談の上、今後も交流を継続することを前提に三カ国間で調整を図ることとしたい、

と日本側の見解を述べ、韓国大学出版社協会の徐鍾錫会長からは、

●二〇〇五年度は日・韓セミナーを韓国において開催すること。開催に当たっては中国大学出版社協会へも開催案内を送るので、中国側の参加を期待する、
という発言があつて「北京調整会議」は終了した。



北京調整會議・議場風景

旧中山道

巢鴨から板橋宿



高岩寺（通称、とげぬき地藏）



とげぬき地藏尊像
(高岩寺蔵)

山手線巢鴨駅を下り、旧中山道の入口がいわゆる地藏通りで、若者の町、原宿のをむこうにはって、おぼあちゃん原宿」ともいわれている。

そこに「とげぬき地藏尊」がある。正式には高岩寺といい、曹洞宗に属し、慶長元年（一五九六）江戸の湯島に開かれ、明治二四年に現在地に移転した。本尊は小石川田付氏の寄付した小さな印像で、延命地藏菩薩。享保一三年（一七二八）に書かれた縁起によると、田付氏が妻の病氣平癒のため、日ごろ信仰していた地藏尊に祈願した。ある夜の夢に黒衣に袈裟を着けた僧があらわれ「私の像を一寸三分に彫刻して川に浮かべよ」といわれた。田付氏は「急にはできない」と答えると、「では印像を与えよう」といわれ夢から覚めた。枕もとを見ると地藏尊の印像があった。印像を印肉につけて一万体の御影つくり一心に祈願し両国橋から河水に浮かべたところ、やがて妻の病氣は快復に向かったという。後日この話を聞いた人が、その地藏尊の御影を頂き大切に持っていた。ある時誤って針を飲み込み、苦しんでいた女性にその御影の一枚を飲ませたところ女性は腹中のものを吐き、飲みこんだ針が地藏尊の御影を貫いてでてきたという。「とげぬき地藏尊」といわれるゆえんである。

明治の移転以後、電柱の張り紙広告が当たるなどして次第に参詣者が増え、今は、境内に線香の煙が絶えない。巢鴨から都電荒川線庚申塚駅まで、せんべいや大福を売る店、洋品店、食堂などが並んでいる。特に四の日の縁日には賑わいをみせている。境内にある「洗い観音」の前にはご利益を願う善男善女で行列ができるほどである。多くの人が、地藏尊とかん違いしているようで、肝心の地藏尊は本堂の奥に奉られているのである。境内に設置されている「とげぬき生活館」では弁護士や社会福祉関係の専門家が、生活上のあらゆる問題の相談に無料で応じていることも賑う理由の一つであろう。

地藏尊といえば地藏通り入口に、真性寺がある。門に「弘法大師御府内八十八

高岩寺（とげぬき地藏尊）
 東京都豊島区巢鴨3-35-2
 縁日（毎月4日・14日・24日）
 JR山手線巢鴨駅下車

真性寺 東京都豊島区巢鴨3-21-21
 JR山手線巢鴨駅下車

近藤勇の墓
 JR埼京線板橋駅前



江戸六地藏の一つ真性寺

ヶ所第三十三番・江戸六地藏第三番」とあり、境内には高さ二・六八メートルの大きな地藏尊が蓮台に跏趺している。江戸六地藏の一つである。六地藏は、平安時代の承和年間に、小野篁が京都の入口六カ所に地藏尊を造立し、天下安全宝祚長遠洛陽繁栄を祈り、諸人往來の街道に安置して人々に縁を結ばせた故事にならい、江戸深川に住む地藏坊正元の発願により、庶民から浄財を募って、宝永五年（一七〇八）〜享保五年（一七二〇）の間に、品川寺（品川区、東海道）、大宗寺（新宿区、甲州街道）、真性寺（豊島区、中山道）、東禅寺（台東区、奥州街道）、靈巖寺（江東区、水戸街道）、永代寺（江東区、千葉街道）へのこの寺は現存しない）の六カ所に造立された。

真性寺の地藏尊は一七一四年に造立され、火災、戦災を免れ、部分的な修正は加えられたが当時の姿を残している。六地藏参りは「東都歳時記」によれば、品川寺から始まり、上記の順で巡拝したといわれている。

旧中山道を下って行くと板橋宿に至る。板橋の名は平安末期には使われていて、板の太鼓橋だったのでその名が生れたともいわれる。江戸から二里二五町三三間（約一一キロ）、上宿・中宿・平尾宿からなり、宿場町として栄えた面影が残る。

JR埼京線の手前を左に入ると、新撰組隊長近藤勇の墓がある。千葉流山で捕らえられた近藤は、この板橋に移送され、宿の外れの平尾で処刑され、首は京都まで運ばれ、少し離れた地に胴体だけが葬られた。そこに近藤の小さな墓石が残っている。近藤と土方歳三の名を刻んだ石塔は隊士永倉新八が二人の追悼のために明治八年に建立したものである。

この他、巢鴨近辺には、桜のソメイヨシノ発祥の地である「染井」、また江戸三大閻魔の一つに数えられる善養寺がある。ちなみに大正大学もこの道筋にある。ぶらり歩きながら、日本人の信仰心について考える機会としては如何だろうか。

（大正大学出版会 新井俊定）

大学出版部ニュース

▼二〇〇四年度夏季研修会開催

八月二六日から二八日までの三日間、大阪市内にある厚生年金会館「ウェルシティ大阪」で、大学出版部協会夏季研修会が開催された(当番校は麗澤大学出版部、二五校・六三名参加)。

初日のケーススタディは名古屋大学出版部が、一九八二年の出版部設立以後の活動経過を詳細に報告した。特に、配布資料の「名古屋大学出版部十年誌」は一八〇頁にも及び、大学出版部の上質の軌跡が遍く読みとれ、出版部をゼロから立ち上げた人々の物語ともなっている。

特別講演は、京都大学副学長の丸山正樹先生が、「国立大学法人化後の教養教育」と題して行った。ご自身が高等教育



特別講演の丸山先生

研究開発推進機構長を務められ、教養教育の改善や教育環境の活性化を積極的にすすめている立場から、現行の教育システムがかかえる問題点を鋭く指摘された。学生の勉強意欲を引き出し、専門教育を受けるに十分な基礎学力と人間性を涵養する教養教育がどうあるべきかを論じられ、節々から、大学出版部の学生向け教養書のあり方を考えさせられた。

研修会二日目は、編集・営業・電子・国際の四部会に分かれて研修が開かれた。ケーススタディ発表など、普段の部会ではできない、内容の濃いものになった。午後は、武蔵野美術大学出版局が、発足以来の経過や経営的な側面、出版内容などのケーススタディ報告をした。

その後、休憩をはさんで全体会が始まった。四部会の報告がそれぞれの部長から行われ、それを受けて渡邊勲幹事長による幹事長総括で締め括られた。

懇親会を兼ねた夕食後は、研修会場が繁華街に近いこともあって、懇親会の流れをそのままに、連れ立って外にでかける姿も少なくなかったようである。

▼第十一回北京国際図書博覧会出展

九月二〜六日まで北京で開催された「第十一回北京国際図書博覧会」にAJUPがブースを展開し、書籍一五〇点を出展した。九月五日には、同時期に北京を訪問していた渡邊勲幹事長以下四名の訪中団も視察に訪れた。会場となった北京展覽館は、中露蜜月時代を偲ばせるロシア風の重厚な佇まいを見せ、主催者の発表では四二カ国から九〇〇社が出展し、著作権取引も活発に行われていた。

▼日販王子流通センターの見学会実施

九月八日、営業部会を中心に一七名のメンバーが日販王子流通センターを訪問し、最新の仕分けシステムを見学、意見交換などを行った。

▼編集部会秋季研修会開催

一〇月二二〜二三日、神戸タワーサイドホテルにて、編集部会秋季研修会を開催した(一八校二二名参加)。二二日はケーススタディ(報告者川成田和男氏・北海道大学図書刊行会)を行い、二三日は京都大学図書館の赤澤久弥氏・呑海沙織氏による講演と交流会を行った。

北海道大学図書刊行会

▼高井宗宏編『ブルックス札幌農学校講義』(B5判・一〇五〇〇円) これまでクラークの陰に隠れていたW・P・ブルックス教授が一八七七年に北海道大学の前身である札幌農学校で行なった農学講義を、第二期生新渡戸稻造らの講義ノートから再現し、これに章ごとの解説とその後の継承・発展の経緯を加えた。

▼前野紀一著『新版 水の科学』(四六判・一八九〇円) 「水」といえば家庭で容易に作られる身近な存在でありながら、その実体に関してはごく断片的な知識か、半世紀前の不確実な内容に基づいて紹介されていることが多い。結晶構造から土星の輪の水の話まで、水の物理・化学的性質を、最新のデータにより興味深く紹介。▼池上二良著『北方言語叢考』(A5判・四九三・五五判) 傘寿を越えた著者による、これまでの著書の枠に収まらなかった、北方諸言語にまたがる概説、アイヌ語や日本語とツングース語の関係などを論じた大小一八篇の論文・記事を収録。入門的文章も含め、著者の真摯な学問的姿勢と高い水準に貫かれた、最後の研究記述の集成である。

東北大学出版会

▼大平千枝子『阿部次郎とその家族―愛はかなしみを超えて―』(四六判、三二四頁、二三〇〇円(税込))『阿部次郎』の待望の続刊。「かなしみを超える愛」―父と母の隠された真実を追い求め、そして姉と弟の希有な姿をとどめておくために、渾身の力を込めた畢生の書。結婚以前の父次郎と母つねを襲った忌まわしい「事件」とはなにか。家族のその後を運命づけるこの事件を核心に据え、成長する子供たちの様々な姿を通して、家族の「愛とかなしみ」の絆が解き明かされていく。『三太郎の日記』執筆の真の動機が今をはじめて明らかにする。▼ステファーン・キースリング著／神原章浩訳『エール大学対校エイト物語』(四六判、二三八頁、一八九〇円(税込)) エール大学ポート部は、栄光の対校エイトに選ばれるため、伝統を誇るハーバード大学との定期戦での勝利を目指し、学生生活のすべてを懸けて戦う。未経験者から一流選手へとクルーの仲間と共に成長していく過程がユーモラスに描かれている。ポート選手の味わう極限の苦しみと無上の歓喜を楽しんでいただきたい。

流通経済大学出版会

文部科学省所管の教育情報通信衛星の二時間利用枠を使い、全国約二千施設(エルネット)を構成する文科省関連研究機関・主要公立図書館・地域教育センター・小中高大等)へミシガン大学情報大学院から遠隔教授の公開実験を行った。一時間目では、知識労働者社会を想定して、知的活動と電子図書館の現状について講義を行った。さらに情報大学院長が、高度電子図書館機能に関連する研究教育や図書館の地域情報センター化の現状について、日本語訳付き講義を行った。二時間目では、学習者が院長へ質疑ができる仕組みを実験した。海外機関との連携学習で問題になるのは、英語などの語学である。この解決法は、費用対効果の観点から機械翻訳システムを活用するしかない。そこで、インターネットテレビ会議システム・機械翻訳システム・電子メール・掲示板システムの一体運用により、学習者と院長間のメール交換に機械翻訳システムを介在させてみた。

この実験の成功により、オープンカレッジの名に相応しく、言語の壁を遠隔学習から取り除けることを示した。(市川)

聖学院大学出版会

▼倉松功著『私学としてのキリスト教大
学——教育の祝福と改革』（四六判、税
込価格三一五〇円）

戦後日本の私立大学は、高等教育機関
としての重要な位置を占めてきた。しか
し、現在、大学設置基準の大綱化以後の
教養教育の再編成、大学院の重点化、第
三者機関による教育・研究評価制度導入
など、私立大学は、大きな変革を求めら
れている。その理由は、十八歳人口の減
少による大学経営の困難が目前に迫っ
ていることだけではない。大学が変革せざ
るを得ないのは、現代の社会が求める人
材の養成のために、大学はどのような教
育を実施すべきなのか、大学はどのよう
な機能が果たせるか、の大学に突きつけ
られた根本的問いがそこにあるからであ
る。

「私立大学」は、この変革の要請にど
のように応え、私立大学としての「建学
の理念」にたった高等教育を提供できる
のか。筆者は、本書で、東北学院大学学
長として取り組んできた「現代における
私立大学としてのキリスト教大学の意義
とは何か」という根本問題に答える。

聖徳大学出版会

本学出版会「心と身体の癒しシリーズ」
の第二巻は、先に、お知らせしました森
彪著の「医と癒し」（仮題）ですが
（二月刊行予定）、第三巻は身体と心の
関係について「スポーツとメンタル」
（仮題）と題して現在執筆に入っており
ます。著者は、本学の花沢成一教授（臨
床心理学）と永島正紀教授（精神医学）
です。（二〇〇五年四月刊行予定）

それぞれオリンピック選手の心理面での
アドバイザーでもあり、さまざまな具体
例も取り上げた興味ある内容となるもの
と思われれます。

また心と身体の関係が科学的にかつ具体
的に解明されることが期待されます。社
会のシステム化が進行するなかで人々の
ストレスは拡大する一方です。

「心と身体の癒しシリーズ」を、読んで
頂き、豊かな心身を維持し育む契機とな
れば幸いです。

少子化高齢化の時代にあって、経済の状
況も安定したものではありません。その
ような時、天から与えられたなものに
も変えられない心と身体を守る工夫と知
恵がこのシリーズに収められています。

麗澤大学出版会

▼岩見良太郎著『「場所」と「場」のま
ちづくりを歩く』（二七三〇円）イギリ
スは本当に成熟した市民社会なのか？
苦闘するイギリスの「まちづくり」の中
に新たな「まちづくり」の可能性を求め
て、英国の諸都市を巡歴し、足で書いた
思索ノートとエッセイ。「日本のまちづ
くりを考える」を併載。

▼大藏雄之助著『一票の反対——ジャネ
ット・ランキンの生涯』（一六八〇円）
一九四一年の日米開戦にあたって米国公
会での参戦決議案にたった一人反対した
国会議員がいた。激動の20世紀史を背景
に、反戦を貫き、しかも華麗に生き抜い
た「知られざるヒロイン」の生涯を描き、
反戦・平和とジェンダーの意義を問う。

▼斎藤茂大著『ストレス知らずの処方箋
——うつを吹き飛ばす生き方』（一三六
五円）



「場所」と「場」の
まちづくりを歩く
定価 2,730円

慶應義塾大学出版会

- ▼新倉俊一著『評伝 西脇順三郎』(三一五〇円) 日本の近・現代詩に、その豊饒な言語的感覚をもって衝撃を与え、いまだに多くの愛読者をもつ西脇順三郎の初の本格的評伝。西脇伝記の決定版である。
- ▼朽木量著『墓碑の民族学・考古学』(六〇九〇円) 日本とニューカレドニア日系移民の墓碑という二つの素材をもとに、民俗学、民族学・考古学、近世地域史、近世経済史にわたる文脈の中で墓碑の歴史の意味を明らかにする気鋭の論考。
- ▼野村浩二著『資本の測定—日本経済の資本深化と生産性』(慶應義塾大学産業研究所叢書、六五一〇円) 経済成長や生産分析において最も重要な生産要素の一つである資本の概念と、整合的な測定方法からその構造分析までを網羅した、第一級の「資本」研究書。
- ▼徐承元著『日本の経済外交と中国』(三〇四五円) 中国との友好関係の確立・維持や争点の処理に際し、日本政府は経済的手段をいかに活用してきたか。日本の対中政府資金供与における政策過程と経済手法、その影響を、一九七八—一九七の各内閣期ごとに綿密に検証した労作。

産業能率大学出版部

- 厚生労働省実施「ホワイトカラー職務能力評価試験」テキストとして最適な一冊
- ▼山田庫平他編著『財務管理実務』(二一〇〇円)
本書は現代の財務管理の実務を体系的にまとめたものです。理解しやすいように具体的な計算例と解説をふんだんに取り入れ、平易で簡潔にまとめられ、財務管理を学習したい方やすでに実務に携わっている方々の基本書・参考書として最適です。
- ▼『OPEN INNOVATION—今求められるオープン・イノベーション型社会構造—』(二二〇〇円)
本書は、ハーバード・ビジネス・スクールで研究されている最新のイノベーション理論をベースに、従来型のクローズド・イノベーション手法の限界を知り、新たなオープン・イノベーションの道案内となるべく執筆されました。
著者の人的ネットワークを駆使した調査にもとづく内容が、あまたの紹介されている点は類書を圧倒しており、ビジネス専攻の学部学生やMBA志望者のもとより、ビジネスマン必携の書です。

専修大学出版局

- ▼藤本一美・濱賀祐子著『米国の大統領と国政選挙—「リベラル」と「コンサヴァティブ」の対立』(三五一〇円)
アメリカでは、三十年代にルーズベルト大統領が推進したニューディール政策以後、主として民主党の主導による連邦政府の役割と権限の強化が進んだ。一方では六十年代後半から新保守主義が台頭してきて、おもに共和党がそれを担った。このように戦後のアメリカでは、民主党と共和党の2大政党の対立軸による政権交代が行なわれ、その舵とりを担ったのが歴代の大統領であったといえる。本書は、第二次大戦後のアメリカにおけるすべての大統領選挙と中間選挙を取りあげて、政治・経済・外交等の争点を示し、「リベラル」と「コンサヴァティブ」の対立の視点から、米國政治のダイナミクスを概観しようとするものである。



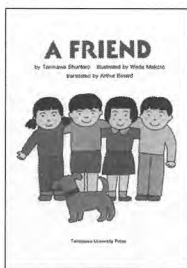
『米国の大統領と国政選挙』
定価 2,520円

大正大学出版会

- ▼本会は大正大学事業法人制作の書籍を販売している。本学客員教授養老孟司著『真っ赤なウン』（定価二二〇〇円）、まんだらライブラリーとして、石上善應著『地獄訪問』（定価七二四円）、ひろさちや著『釈迦物語』（定価七二四円）、野田文隆著『間違いだらけのメンタルヘルス』（定価七二四円）の四冊。養老氏は最近多くの本を出版、注目されており反響もあった。ライブラリーシリーズは、今秋に、ひろさちや編『仏教はあなたを救えるか』を刊行予定。
- ▼青木聡他著『臨床心理学のための調査研究入門』（定価二五〇〇円）を重版した。臨床心理学における調査研究の方法を身につけることを目的とした入門書。
- ▼清水宥聖・千葉眞郎編『与謝野晶子書簡集―印影と翻刻―』（定価一二六〇〇円）。情熱の歌人晶子の『みだれ髪』刊行直前（明治三三年から三四年）の書簡四三通の印影と翻刻。
- ▼寺内大吉・永井路子著『史脈瑞應』（定価一九九五円）。昭和三〇年代の『近代説話』の発刊のいきさつ。また同人であり直木賞作家が仏教文学の真髄を語り合つた。

玉川大学出版部

- ▼『國語問題論争史』（土屋道雄著・五二五〇円）当用漢字と現代仮名遣いという戦後の国語改革は大論争を引き起こす。この問題は明治以来のもので、本書は、そうした論争を克明に辿ることににより、日本語の正しい表記法を提言する。
- ▼『A FRIEND』（谷川俊太郎・文／和田誠・絵／A・ビナード訳・一七八五円）大好評の絵本『ともだち』英語版。小学校の総合学習における英語の教材に、また家庭での早期英語教育用の絵本として、将来世界にはばたくこどもたちの情操を養うのに最適の本。
- ▼『アジア・オセアニアの高等教育』（馬越徹編・四七二五円）アジア金融危機を契機に、大胆な改革戦略を実施に移しつつあるアジア・オセアニアの高等教育。国際的競争に耐えうる教育システムの構築に果敢に挑戦している各国の動向。



『A FRIEND』
定価 1,785円

中央大学出版部

- ▼藤本哲也著『犯罪学の窓』（三一五〇円）平成の時代に入って制定された新立法を分かり易く解説。犯罪学を通して社会に警告を発した好著。
- ▼奥本勝彦・林田博光編著『マーケティング概論』（二五二〇円）消費者や顧客の欲求が多様化しマーケティング戦略も高度化。難解なマーケティング論を易しく解説した初学者向けのテキスト。
- ▼早川善治郎編著『現代社会学理論とメディアの諸相』（五二五〇円）21世紀の社会学の課題を明らかにし、文化とコミュニケーション関係を解明。さらに日本の各種メディアの現状を分析する。
- ▼中央大学人文科学研究所編『剣と愛と――中世ロマニアの文学』（三二五五円）12世紀、南仏に叙情詩、十字軍から叙事詩、ケルトの森からロマンスが誕生した。ヨーロッパ文学の揺籃期をロマニアという視点から再構築する。
- ▼糸井重夫著『現代の金融と経済』（二一〇〇円）七〇年代以降の国際金融の変容を、金融理論・金融政策・金融規制監督制度の面から整理し、これが日本経済に与えた影響を検討する。

東京大学出版会

▼『山口晃作品集』(B5判、横本、一〇四頁、本体二八〇〇円)

日本橋三越本店の一〇〇周年キャンペーンで話題になった現代美術作家の第一作品集。緻密、過剰、繊細、機知、諧謔——油画を学んだ画家が、日本美術の方法を駆使し、日本画と西洋画、ペインティングとドローイング、美術とサブカルチャーといった近代的な二分法を超えた独自の世界を展開する。解説・山下裕二(明治学院大学教授、カラー図版八〇頁からハガキ大の作品まで六十余点収録。



東京電機大学出版局

コンピュータ・ネットワークは、初期形成段階を過ぎ、社会のインフラとしてすでに定着した。その利用も社会全体に及ぶようになって久しい。しかし、ネットに関する議論は、産業政策あるいは企業利益の面からがほとんどである。また、一般には「時代に乗り遅れるな」とか「ネットはコワイ」といった脅迫が幅をきかせている。この現状は、ネットユーザーをとまどいと不安のなかに宙づりにし、社会の自律的再生を妨げている。

▼遠藤薫編著『インターネットと世論形成—間メディア的言説の連鎖と抗争』(二二七五円) 本書は、インターネットがコミュニケーション・メディアとして埋め込まれた社会における〈世論〉形成の諸相を記述・分析・考察したものである。現在の社会において考えられるべき認識枠組みを提示したうえで、2ちゃんねる、電車男、ブログ、Winny、佐世保事件、反日など、ビッドな事例を取り上げ報告。さらに、2ちゃんねる管理人西村博之と編者の対談を収録した。読者自身がネットワーク社会の中で考え、活動するための足がかりを提供する。

東京農業大学出版会

▼畑の土と水 湿润地域の畑地灌漑論 駒村正治著

わが国各地の畑地土壌や畑地灌漑及び畑作農業に触れ、個々の調査報告、著書及び掲載論文を取りまとめたもの。畑地灌漑の改善及び進展に役立ててほしい。

平成一六年二月/A五判

一三七頁/税込価格一四七〇円

▼食品市場の展開と地域フードビジネス 美土路知之著

フードビジネスについての一般的な理解を深めるためのテキストとして、上述した食品市場の市場再編とそれにとまなう、生産者・消費者・ビジネスの諸関係現状や問題点などを整理したものである。

平成一六年四月/A五判

一九四頁/税込価格二一〇〇円

▼減農薬で丈夫な野菜作り 古谷正著

野菜生育のための環境条件はどのようなべきか。野菜17品目についてその特性と減農薬栽培のためのポイントをまとめたもの。

平成十六年六月/A五判

一九二頁/税込価格二一〇〇円

法政大学出版局

▼『横山源之助全集』（全9巻・別巻2／内容見本呈）二〇〇〇年一〇月に刊行を開始した、社会思想社版「横山源之助全集」を継承し、残る八巻を刊行致します。再開第一回（通算第4回）は、第5巻『富豪史（一）』（A5判・一万二六〇〇円）下層社会の研究に劣らず豊富な量と内容をもちながら、ほとんど顧みられることのなかった明治富豪史研究の前段階に位置する作品群を収録する。富豪を論じつつ、その陰に敗れ去った者たちにも光を当て、富豪の問題を社会問題として位置づけた諸論考は、横山の特異な史観の本質を明らかにする。

▼『社会の芸術』（N・ルーマン著・馬場靖雄訳・四六判・八一九〇円）多様性と個性の世界である芸術は、社会システムの中でどう存在するのか。直観と想像力、知覚とコミュニケーションの機能に注目しつつ、システムと環境、メディアと形式、観察の一次性と二次性、自己言及と他者言及、等々の差異・区分によって芸術システムを究明し、他の社会的諸機能システムとの相互的な刺激の可能性を示唆する芸術の社会理論。

放送大学教育振興会

▼看護教育関係の科目を開講
平成十六年四月より医療の質の向上をはかるために准看護師が看護師資格を得るための教育を推進することになった。放送大学でもその社会的要請に応えるべく「准看護師の看護師資格取得に資する科目」を開設し以下の四科目を開講した。

「基礎看護学」：看護専門職として必須の専門知識や看護技術を学ぶ。二学期より開設された。

「在宅看護論」：在宅療養を支援する訪問看護の制度や支援助の実際を学ぶ。二学期より開設された。

「精神看護学」：精神看護実践の基礎、患者との関わり方、地域ケア、新たな精神看護の模索などを学ぶ。夏季集中講義として開設。

「老年看護学」：高齢者看護の目標と加齢に伴う諸機能の変化、疾病・治療とリハビリ、ケアの実際について学ぶ。夏季集中講義として開設。

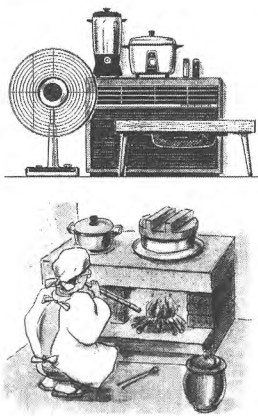
▼「中央アジアの歴史・社会・文化」
中央アジアという特色ある地域がどのようにして形成されたか、その社会と文化の多様性について学ぶ。二学期開設。

武蔵野美術大学出版局

『デザイン』の原郷 1944-2004』
網戸通夫著、菊判、三〇四頁、三〇四五円、カラー図版多数収録。

六〇年代から七〇年代を家電メーカーのプログラクデザイナーとして過ごした後、三十年にわたって教鞭をとる武蔵野美術大学教授による異色のデザイン史。

「デザインとは、私たちの日々の営み、その中に培われる『知と情』に支えられた暮らしのバランス、つまり生活そのものを考えること」という著者の原点は一九四四年。敗戦を京城（現・ソウル）で迎えた七歳の少年は、引揚げを絵日記に綴る。当時の記録『朝鮮から日本へ』をはじめ、会津藩・鏝師の末裔としての歴史観も見え隠れする私的デザインの旅。



明星大学出版部

▼井出洋一郎著『新版・美術館学入門』

本文三五〇頁／カラー図版二〇頁

四六判並製 三六七五円（税込）

この十年の間に美術館を巡る環境は一変した。いまや市民の美術館など不要とされかねない社会になりつつある。文化芸術の推移だけを見ては美術館の運営は立ちゆかないのが現実である。内外の政治経済と連動しているからである。こうした困難な状況の下でそれぞれの美術館の存在理由が問われている。

しかしながら、私たちの不安な毎日を癒してくれるのは、人間の愛情とゆたかな自然、そしてすぐれた美術や音楽などの芸術の恵みである。芸術への愛、それを人々と分かち合いたいと願うスタッフの情熱を生かし、磨いてゆくこと――。

語られる事柄は経験に裏打ちされ、紹介される事例は具体的である。そのノウハウは学芸員をこころざす人、美術館担当者、美術愛好者への心構えとヒントに満ちている。現況を分析し、新たな成熟に向けて、近未来を見据えた二十一世紀の美術館像を提言する格好の道案内。

早稲田大学出版部

▼「スウェーデン ハンドブック」第2

版』（岡沢憲英・宮本太郎編／三一五〇

円）年金問題や男女共同参画で新たな注

目を浴びるスウェーデン。その現状を、

福祉を初め政治経済から文学まで、第一

線の研究者が余すところなくレポートす

る。最新情報に基づく全面改訂版。

▼「比較のなかの中国政治」（日本比較

政治学会編／三三六〇円）民主化の現状

や国家と党、中央と地方の関係等を比較

政治学の観点に立って分析し、ダイナミ

ックに変容する中国政治の特質を明らか

にする。日本比較政治学会年報第6号。

▼「黒澤明をめぐる12人の狂詩曲」（岩

本憲児編／二七三〇円）黒澤作品に触発

された一二人の執筆者が黒澤明を求めて

独自のアプローチでその世界にせまる。

藪野健画・写真も多数収録。



東海大学出版会

▼「自然学」自然の「共生循環」を考え

る』藤原昇・池原健二・磯辺ゆう著（A

5変形判、定価三三六〇円）

生物・無生物に関わりなく、我々をとり

まく環境は相互に作用しあっている。

その中では人間も自然の一部であり、人

間の所為も自然の作用として大循環をし

ている。

本書は、星の誕生からその死までの大

きな時空スケールでの出来事から、生物

個体の小さな時空スケールでの出来事ま

で、「共生循環」を軸に自然科学の基礎

を展開し、その「概念」および「原理」

を明らかにする。

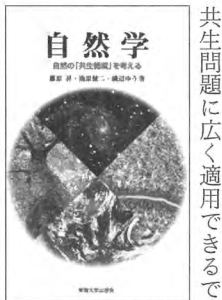
また、「共生循環の輪」をベースにし

た「共生循環型地域社会」についても提

言しており、これらの考え方は自然界の

生物・生命のみならず、様々な産業間の

共生問題に広く適用できるであろう。



名古屋大学出版会

▼池田 廉訳『ペトルルカ 凱旋』(五〇四〇円) ヨーロッパの知的宇宙の全体をアレゴリカルに形象化、西洋の文学・芸術に絶大な影響を及ぼした傑作。

▼ピーター・バーク著 石井三記訳『ルイ14世』作られる太陽王』(四四一〇円) 当時の絵画や演劇等を博搜し、権力と表象やメディアの関係を歴史的に解明。

▼ピーター・クラーク著 西沢 保他訳『イギリス現代史 1900-2000』(五〇四〇円) 二〇世紀イギリス史の新たなスタンダード。政治・経済から社会・文化まで、人々の幅広い経験を描ききる。

▼平野 聡著『清帝国とチベット問題―多民族統合の成立と瓦解―』(六三〇〇円) 多民族統合を実現した清帝国の論理と崩壊過程を、実証的に描きだした労作。

▼伊勢田哲治著『認識論を社会化する』(五五〇〇円) 科学に社会はどのように関わっているか。社会認識論を紹介しつつ、科学社会学と認識論の架橋を試みる。

▼田中正明著『日本湖沼誌Ⅱ。フランクトンから見た富栄養化の現状―』(一五七五〇円) 知見の乏しい湖沼に関し、水質・生物相などの貴重な調査記録を集成。

三重大学出版会

▼古平浩著『経営再建嵐の一〇〇日―』の鉄道のマーケティング』A5判、二二〇頁(本体一五〇〇円+税)

はじめに

第一章 第三セクター鉄道

第二章 しなの鉄道設立の経緯

第三章 しなの鉄道の不振と対策

第四章 しなの鉄道の営業分析

第五章 しなの鉄道営業再建モデル

終章 今後の経営課題

平成九年一〇月一日の長野新幹線開業に伴い、信越線の軽井沢〜篠ノ井間が鉄道資産一〇三億円で地元自治体に引き継がれた。しかし、同社は赤字を生み続け、平成一三年度決算では二億三四〇〇万円の最終損益を計上する。続いて平成一二年末には社長の山極達郎氏(元県出納長)が辞任し、杉野正氏が新社長に起用されて経営再建に乗り出した。

本書は、こうしたしなの鉄道の軌跡を分析し、同社の経営悪化の要因と黒字化の方策とを提案する。

京都大学学術出版会

▼宮崎興二編著『高次元図形サイエンス』A4判・三二〇頁・五八八〇円/われわれは三次元までの世界しか直接見ることができないが、四次元以上の図形も三次元や二次元に投影させれば見ることができようになる。実際、建築などのデザインで、高次元図形の三次元投影と見なせるものが多数使われている。また、あらゆる二次元・三次元図形は、それを投影図とするより高次元図形を想定できる。そのような目で身近な造形物を見ると、また違った楽しみが生まれるだろう。

▼深尾昌一郎他著『気象と大気のレーダーリモートセンシング』菊判・五〇〇頁・五二五〇円(予) / 大気科学の進歩は、絶えず導入されてきた観測技術によるところが大きい。中でも大気レーダーは、中層大気における乱流の実態とそれらの大気大循環への密接な関与を明らかにした。しかし、この分野の学術成果は、電気工学から気象学に至る幅広い分野で分散して論じられるのみであり、包括的な理論・技術書はこれまでなかった。文字通り学際分野の基礎から最新の成果までを統一的・包括的に論ずる初めての書物。

大阪経済法科大学出版部

▼アジア研究所研究叢書1『満州事変前夜における在間島日本総領事館文書』上
在鉄嶺日本領事館文書 在広東日本総領事館文書(大阪経済法科大学間島史料研究会編A5判上製・函入二六二五〇円)既刊

本書は伊地知吉次(一八八九〜一九六七)間島副領事が収集・記録した約三八〇〇枚にわたる本学所蔵の文書資料を、項目別に分類整理し、解説を加えたものである。資料の根幹は、一九三〇年三月から翌年四月まで首席外務書記生として在間島日本総領事館に勤務した時期の文書資料であるが、収集資料は明治末から昭和初期の満州事変の数ヶ月前までにおよび、機密文書を多数まじえた公信・公電・報告書・中国側諸機関との往復文書など貴重な資料が占められている。敗戦の過程で外交文書の散逸焼亡・押収などのことがあり、『日本外交文書』(外務省刊)・『現代史資料』(みすず書房刊)等の既在の歴史資料を補いうる資料である。日本・中国・朝鮮の近現代史研究には必携の文書資料である。下巻は近々刊行予定。

大阪大学出版会

▼西尾幾治編著『(復刻版) 大阪帝国大学創立史』A5判・四四〇頁・上製箱入三一五〇円 大阪大学創立時の事務を取り仕切った事務官が、後日その沿革を知ろうとするとき参考資料となるようにとこれまで集めておいた記録をまとめて昭和十年に刊行して大学関係者に配布した。内容は、長年の熱心な設立運動が世論を高め、大阪全体の大きな要望となって政府を動かした様子をよく伝えている。

▼上嶋英機・村田武一郎・山口克人他編著『海と陸との環境共生学 海陸一体都市をめざして』A5判・二五〇頁・二九四〇円 自然環境を再生し共生する都市づくりを提言。

▼大木道則・内田章訳『(縮刷版)有機化学変換のIUPAC命名法 その名称および記号・線形表示』A5判・一七〇頁・一五七五円 論文作成に必要な専門用語の和訳。廉価版。

▼倉光成紀・増井良治・中川紀子著 大阪大学新世紀セミナー『生物学が変わる!ーポストゲノム時代の原子生物学ー』A5判・一〇〇頁・一〇五〇円 生命の全情報をはたつた一つの細胞で読める。

関西大学出版部

▼池田 進著『ヒトから人へー知的機能の一つの系譜ー』(A5判・三二五〇円) 実験心理学の基盤に立ちながら、人や動物が環境と相互作用しながら、あらたな行動世界を創造していく知的な仕組みを、心理学に隣接する脳神経科学や生態学の論点にも留意しながら再構築した。知能研究の独自の試み。

▼井上 宏著『情報メディアと現代社会ー「現実世界」と「メディア世界」ー』(A5判・四三〇五円) 今日の私たちの生活は、高度化した「メディア世界」に支えられている。効率の良い便宜がはかられていく一方で、生身の人間が生きる「現実世界」と「メディア世界」のはざままで揺れ動く現代の諸問題を追究する。

▼八島智子著『外国語コミュニケーションの情意と動機ー研究と教育の視点ー』(A5判・二一〇〇円) 外国語を用いた異文化との出会いは、他者と共通の意味を構築していくプロセスである。外国語で話すときの不安や自信、外国語学習の動機、異文化への態度や接触などを扱い、異文化理解をめざす外国語教育研究への学際的アプローチを提示する。

関西学院大学出版会

新刊

- ▼関谷一彦・細見和志・山上浩嗣編著
『はじめて学ぶフランス』社会、思想から芸術、生活まで幅広くフランスの魅力を探る。(A5並製・三三〇頁・定価二九四〇円)
- ▼持続可能性研究会(天野明弘・大江瑞江編著)
『持続可能社会構築のフロンティア—環境経営と企業の社会的責任(CSR)—』これからの企業経営において避けて通れない「持続可能社会」構築のための取り組みを紹介。(A5並製・三二〇頁・定価二九四〇円)
- ▼関西学院大学アメリカ研究会(栗林輝夫編著)
『21世紀アメリカを読み解く』大きく変貌する超大国の実像に迫る。(A5並製・二二〇頁・定価二二一〇円)
- 既刊
- ▼窪寺俊之・谷山洋三・伊藤高章著
『スピリチュアルケアを語る—ホスピス、ビハラーの臨床から』ホスピスなどの現場から実践を語る。(A5並製・一二〇頁・定価二二六〇円)

九州大学出版会

- ▼島谷謙著『ナチスと闘った劇作家たち—もうひとつのドイツ文学—』(四六判・三六四頁・三七八〇円) ナチス政権下に亡命した五人の劇作家たちの生の軌跡と作品世界。彼らは二度の世界大戦に遭遇し、祖国への帰還を夢見た二十世紀ドイツのオデッセウスである。
- ▼奥村美代子・赤星礼子編『生活経営学』(A5判・一九六頁・二五二〇円) 二十世紀の生活文化を創造するために、家族・時間・労働・生活設計・生活経済・消費者問題・生活情報などにわたって、地域の資料を取り入れながら「生活経営」を提示している。
- ▼金鳳珍著『東アジア「開明」知識人の思维空間—鄭観応・福沢諭吉・兪吉濬の比較研究—』(A5判・三四六頁・六〇九〇円) 清国、日本、朝鮮の「開国」により伝統的な東アジア地域秩序と近代的な欧米国際秩序が接触した近代という大転換期の知識人の対内外観とその変容。
- ▼秀村選三監修・多久古文書学校校註『佐賀藩多久領 御屋形日記 第一巻』(A5判・二〇八頁・三一五〇円) 佐賀藩の給人領の支配と生活を窺い得る日記。

部会だより(国際部会)

国際交流と翻訳出版

国際部会は発足段階からの課題である「交流から交易へ」という問題を「三カ国交流の枠組みの中での翻訳出版」に位置付け、夏季研修会において議論した。

翻訳出版と出版社の権利・著法では「翻訳」を「著作権に含まれる権利」とし(著法第21条、27条、第28条において「二次的著作物の利用に関して、原著作者が占有する」としている。著作者が占有する「二次的使用」に関して、出版社は「出版権設定契約」(著法79条、88条に基づく)という形でかろうじて著作者との係わりを保っているが、二次的利用の形態が多様化している今日、フォローできる範囲には限界がある。

「独占許諾契約」の必要性…「独占許諾契約」の導入を提唱しているのが日本ユニ著作権センターであるが、「日本出版社著作権協会」が「ユニ型の独占許諾契約」を導入し、書協も新たな出版契約書のヒナ型を用意するなど新しい動きが始まっている。国際部会ではこのような動向を把握しながら出版社の権利を考え、韓・中との翻訳出版の可能性を探って行く。

人はなぜ本を集めるのか？ なかなか面白いテーマだが、ここでは深入りしないでおこう。とまれ、難しい理屈は抜きに、人は、本を集める。

今では文化中心の位置をおおかた東京に奪われたが、言うまでもなく、かつて関西は出版のセンターであった。熟練した職人集団、資本力のある書肆（しよし）、著者としてまた水準の高い読者としての教養人。この三つの要素がとりわけ集中した京都では、既に一七世紀、一万点近い書籍が発行されている。こうした豊かな伝統と、近代以降も学術研究の一角を担った文化風土を背景に、関西には様々な書籍コレクションが形成された。京都大学附属図書館には、このうちの二〇余が、特殊文庫として所蔵されている。

五撰家筆頭近衛家伝世の「近衛文庫」、日本仏教各宗の開祖や高僧の撰述類を包摂した「蔵経書院文庫」、あるいは、本誌八〇号で岩倉具忠先生が紹介されている「旭江文庫」も貴重なものであるが、いま私に関心を持っているのは富士川游がかの『日本医学史』（裳華房、一九〇四）を著すために収集した「富士川文庫」である。稀覯書も少なくないが、私が触れてみたいのは、人痘による種痘法を初めて日本で成功させた（一七九〇年 ジェンナーの牛痘種痘の六年前にあたる）緒方春朔の種痘書である。富士川が「本邦第一ノ種痘書ナリ」と称えた『種痘必順辨』は有名だが、本文庫にはあまり知られていない春朔の著作『種痘緊轄（しゅとぅきんかつ）』『種痘證治録』も収められているという。

私は、近世日本の科学・技術に関する研究をいつか、シリーズとして出版したいと思っているのだが、そうした意欲を掻き立てるコレクションが身近にあるということは、編集者として幸せなことではないか。当欄では、こうした関西のユニークな文庫を紹介していきたい。

鈴木哲也（京都大学学術出版会）

関西支部だより

編集後記

本誌特集で掲載した丸山先生の文章は、大阪での講演をもとに執筆していただいたものである。紙幅の関係から掲載できなかったが、講演で語られた印象的な話を紹介しよう。

.....*

一九七二年から二年間、妻子と共にドイツで暮らしていた丸山先生は、大学時代にドイツ語を習ったが、読み書きがやっとなで、お世辞にもドイツ語が上手とは言えなかった。子供が病気の時は、辞書と首っ引きで書き記した手紙を奥さんに持たせるのが常だった。

そんなある日、お義父さんが観光がたらドイツへ来た。そしてなんと、借家の大家さんに流暢なドイツ語で挨拶を交わし、何ん自由なく会話をしていた。

お義父さんは旧制高等学校でドイツ語を習ったのだが、四〇年経っても覚えていたというのには、当時の教養教育のレベルの高さには驚愕を禁じ得ない。

.....*

以上が講演で語られたエピソードの概要だが、自分自身を振り返ると、教養教育はおろか専攻した情報科学でさえ、情けない現状である。

小野朋昭

（東海大学出版会・『大学出版』編集長）

日本大学出版部協会加盟出版部一覽

北海道大学図書刊行会

060-0809 札幌市北区北9条西8丁目 北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

東北大学出版会

980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1 東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

流通経済大学出版会

301-8555 龍ヶ崎市平畑 120
TEL 0297-64-0001 FAX 0297-64-0011

聖学院大学出版会

362-8585 上尾市戸崎 1-1
TEL 048-725-9801 FAX 048-725-0324

聖徳大学出版会

271-8555 松戸市岩瀬 550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

麗澤大学出版会

277-8686 柏市光ヶ丘 2-1-1
TEL 04-7173-3331 FAX 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会

108-8346 港区三田 2-19-30
TEL 03-3451-6926 FAX 03-3451-3124

産業能率大学出版部

103-0028 中央区八重洲 1-3-19 辰沼建物ビル7階
TEL 03-5205-2255 FAX 03-5205-2470

専修大学出版局

101-0051 千代田区神田神保町 3-8-3 専修大学4号館
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

大正大学出版会

170-8470 豊島区西巢鴨 3-20-1
TEL 03-5394-3026 FAX 03-5394-3038

玉川大学出版部

194-8610 町田市玉川学園 6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

中央大学出版部

192-0393 八王子市東中野 742-1
TEL 0426-74-2351 FAX 0426-74-2354

東京大学出版会

113-8654 文京区本郷 7-3-1 東京大学構内
TEL 03-3811-8814 FAX 03-3812-6958

東京電機大学出版局

101-8457 千代田区神田錦町 2-2
TEL 03-5280-3433 FAX 03-5280-3563

東京農業大学出版会

156-8502 世田谷区桜丘 1-1-1
TEL 03-5477-2562 FAX 03-5477-2643

法政大学出版局

102-0073 千代田区九段北 3-2-7
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

放送大学教育振興会

105-0001 港区虎ノ門 1-14-1 郵政互助会琴平ビル3F
TEL 03-3502-2750 FAX 03-3592-2482

武蔵野美術大学出版局

180-8566 武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

明星大学出版部

191-8506 日野市程久保 2-1-1
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

早稲田大学出版部

169-0071 新宿区戸塚町 1-104-25
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

東海大学出版会

257-0003 秦野市南矢名 3-10-35 東海大学同窓会館内
TEL 0463-79-3921 FAX 0463-69-5087

名古屋大学出版会

464-0814 名古屋千種区不老町 1 名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

三重大学出版会

514-8507 津市上浜町 1515 三重大学出版ホール内
TEL 059-232-1356 FAX 059-232-1356

京都大学学術出版会

606-8305 京都市左京区吉田河原町 15-9 京大会館内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部

581-8511 八尾市薬師寺 6-10
TEL 0729-41-8211 FAX 0729-41-9979

大阪大学出版会

565-0871 吹田市山田丘 1-1 大阪大学事務局内
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1614

関西大学出版部

564-8680 吹田市山手町 3-3-35
TEL 06-6368-1121 FAX 06-6389-5162

関西学院大学出版会

662-0891 西宮市上ヶ原1番町 1-155
TEL 0798-53-5233 (内線3475) FAX 0798-53-9592

九州大学出版会

812-0053 福岡市東区箱崎 7-1-146 九州大学構内
TEL 092-641-0515 FAX 092-641-0172